

◆ 目黒区 ◆

# 中小企業の景況

平成 25 年度第 2・四半期  
(平成 25 年 7~9 月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

# 目次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 25 年 7～9 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	12
サービス業	15
建設業	18
(3) 調査員のコメント	21
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 25 年 9 月）	24
4. 特別調査「アベノミクス」がもたらす中小企業への影響について	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

## 調査の概要

1. 調査時期 平成 25 年 7 月～9 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	101	100
卸 売 業	29	28
小 売 業	57	57
サ ー ビ ス 業	62	61
建 設 業	45	45
合 計	294	291

調査実施機関 社団法人東京都信用金庫協会

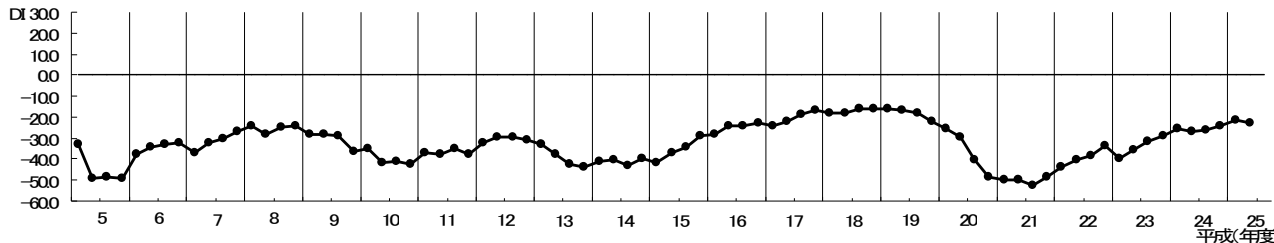
分析実施機関 株式会社帝国データバンク

# 1. 都内中小企業の景況（平成25年7～9月期）

（社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況、足踏み状態。  
～建設業以外の業種で前期を下回る～

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－22.6（前期は－21.5）と前期に比べ1.1ポイント悪化した。業種別に見ると、建設業を除いた5業種で悪化している。来期は全業種とも悪化幅が縮小すると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来期予想	今期との増減
製 造 業	△ 22.2	△ 24.6	△ 2.4	△ 21.0	3.6
卸 売 業	△ 22.4	△ 22.7	△ 0.3	△ 16.8	5.9
小 売 業	△ 33.1	△ 34.5	△ 1.4	△ 33.2	1.3
サービ 業	△ 18.4	△ 19.6	△ 1.2	△ 17.4	2.2
建 設 業	△ 7.8	△ 4.5	3.3	△ 0.6	3.9
不 動 産 業	△ 6.5	△ 7.7	△ 1.2	△ 6.2	1.5
総 合	△ 21.5	△ 22.6	△ 1.1	△ 19.7	2.9

## <製造業>

業況はわずかに悪化幅が拡大した。売上額・受注残・収益はともに減少幅・減益幅が幾分拡大した。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で推移し、原材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別にみると、「輸送用機械」「化学工業」「食料品」「繊維・衣服」は水面下ながら幾分厳しさが和らいだ。一方、「プラスチック」「紙・紙加工品」は大幅に悪化傾向が強まり、「一般機械」「金属製品」「木材・家具」「皮革関連」「印刷関連」は若干深刻さを増している。

来期の業況は厳しさが和らぐと予想している。売上額・受注残・収益はともに改善するものとみている。

## <卸売業>

業況は、前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益はともに前期同様の減少幅・減益幅で推移した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、水面下ながら「化学製品」が大きく持ち直し、「機械器具」「食料品・飲食物品」「繊維・衣服」は幾分上向いた。一方、「家具・建具」「建築材料」は大きく業況感が落ち込んだ。

来期の業況は、水面下ながら上向くと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するとみている。

## <小売業>

業況は、幾分厳しさを増した。売上額・収益はともにやや減少を強めた。価格面では、販売価格は前期並の下降が続き、仕入価格は若干上昇幅が拡大した。

業種別では、「書籍・文房具」は水面下ながら大きく悪化幅が縮小した。一方、「飲食店」「繊維・衣服・身の回り品」は多少厳しさを増し、「ガソリンスタンド・燃料」「木材・建築材料」「家具・建具・じゅう器」は大幅に低調感を強めた。

来期の業況は、水面下ながら持ち直すかと予想している。売上額・収益はともに減少が一服するものとみている。

## <サービス業>

3期連続で厳しさが和らいでいた業況は一転してわずかに悪化傾向が強まった。売上額は幾分減少幅が拡大し、収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格は前期同様の低下基調で推移し、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別にみると、「情報サービス・調査・広告」は若干悪化幅が拡大した。「自動車整備・駐車場」「洗濯・理容・美容」はともに前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は厳しさが和らぐものと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するとみている。

## <建設業>

業況はやや持ち直した。売上額・受注残は増減なく推移し、施行高はわずかに前期を下回った。収益は若干改善した。価格面では、請負価格はやや下降幅が縮小し、材料価格は多少上昇傾向が強まった。

業種別にみると、「職別工事」はわずかに好転し、「総合工事」は前期同様の厳しさが続いた。また、「設備工事」は大きく悪化幅が縮小した。

来期の業況は上向くと予想している。受注残は今期同様の水準で推移し、売上額・施工高は好調さを強め、収益は減益幅が縮小するとみている。

## <不動産業>

業況は、前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益ともにわずかに減少幅・減益幅が拡大した。価格面では、販売価格の厳しさが幾分和らいだ。仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別にみると、「建売・土地売買」は前期同様変化なく推移した。「不動産代理・仲介」は前期並の悪化幅で推移した。

来期の業況は、厳しさが和らぐものと予想している。売上額は今期並の減少が続き、収益は持ち直すものとみている。

## [注]

ディフュージョンインデックス

OD.I (Diffusion Index の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○ 傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。